



北海道林業試験場時報

第 2 號

昭和 12 年 6 月 10 日

北海道林業試験場

時報は本場試験經過の一部にして簡易に
して比較的應用性ありと認むべきもの或
は林業技術上時事問題として興味深く一
般の参考に資すべきもの等を掲ぐ

昭和 12 年 6 月

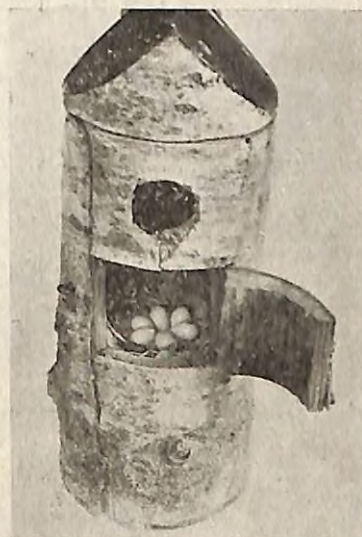
北海道林業試験場

鳥巢箱架設上注意すべき點に就て

農林業上の害蟲驅除の目的を以て鳥巢箱を架設し、有益鳥類を誘致蕃殖せしめんとする施設が日本で初めて行はれたのは、大正8年頃からである。農林省は大正11,12年頃から各府縣に之が架設を盛んに奨励した結果、現在では各府縣は愛林樹栽日に鳥巢箱の架設を奨励してゐる。北海道では大正12年より昭和3,4年頃にかけて各林業機關は一齊に巢箱の架設を初めたが、其結果成績の極めて良かったところもあるが案外不良であつたところもある。それで巢箱を初めて架設しようとする人の爲めに巢箱架設上注意すべき要點を箇條書に摘録して參考に供したいと思ふ。更に専門に亘る詳細の點は別途の機關で發表の見込である。



第1圖 裝飾用巢箱架設狀況



第2圖 コムクドリの營巢せる巢箱
(エゾモモンガの爲め出入
孔を齧み擴げられたもの)

一、巢箱の形状及製作

(1) 農林業上の害蟲驅除の目的には自然木、丸太型の實用巢箱を架設すること。(第2圖参照)

(2) 裝飾用巢箱は主として庭園、公園、其他風致上必要なる林地に架設すること。裝飾用巢箱は實用巢箱に比し一般に成績が劣る傾向がある。

(第1圖参照)

(3) 實用と裝飾を兼ねたものを望む場合は當場で考案せる第3圖の如き裝飾兼實用巢箱を架設するとよい。

(4) 巢箱にはクレオソート其他塗料は成るべく用ひないこと。

(5) 巢箱の材料は成るべく架設せんとする森林若くは其附近の樹種と同種のものを選定すること。

(6) 巢箱の大きさは次の數字が適當してゐる。

鳥の種類	出入孔の直径	巢洞内部の直径	出入孔下面より底部に至る高
小椋鳥、蟻吸	4.0 ^{cm}	18.0 ^{cm}	33.0 ^{cm}
四十雀、小雀 黄鵪、五十雀	3.0以上	14.0	18.0
山雀	3.2	14.0	18.0
雀	3.5	14.0	19.0



第3圖 裝飾兼實用巢箱の架設状況

二、地況林況

(1) 密林内の巢箱架設は避くべきものなれども已むを得ざる場合は成るべく林内の疎開地を選定すること。

(2) 小椋鳥、蟻吸、雀目的の巢箱は村落に近き農耕地周囲の林縁に架設すること。

(3) 四十雀、五十雀目的の巢箱は農耕地周囲の森林若くはそれより内部の森林に架設すること。

(4) 山雀、小雀、黄鵪目的の巢箱は四十雀と同様なるか若くは更に内部の森林に架設すること。

(5) 小椋鳥目的の巢箱は深山幽谷に架設せざること。

(6) 2—5項は海岸地方の森林と山間の森林とで多少趣を異にし一律に決定し得ざるも、何れの場合でも小椋鳥、雀、蟻吸目的の巢箱は林縁に四十雀、小雀、山雀、五十雀、黄鵪目的のものは常に林縁より少しく内部か若くは林内の疎開地の周囲に架設する方針をとると大なる失敗はない。大森林に於て皆伐跡の造林地の保残木に四十雀、山雀目的の巢箱を架設し案外成績の良いことがある。

(7) 學校、公園、社寺林、防風林等には主として小椋鳥目的の巢箱を架設すること。

(8) 孤立木よりも樹林地がよい。

三、巢箱の取付

(1) 巢箱の出入孔の方向は地況林況に依り一概に云はれないが、小椋鳥は南向、四十雀は東向、小雀、蟻吸、黄鵪は北向が良かった例が多い。

(2) 巢箱の出入孔は營巢期間中の最多風向たる南西に向けない方がよい。

(3) 樹高15米以下の森林では巣箱の架設高は小椋鳥、四十雀、山雀、蟻吸、黄鶺鴒等について見れば普通樹高の33—55%の範囲が適當である。

(4) 梢頭に近く取付るのは徒らに困難するだけで策の得たものではない。

(5) 巣箱と巣箱との距離は地況林況と巣箱を利用すべき鳥の棲息状態を考慮して行ふべきもので、一概に決定し得ざるも、一般に小椋鳥のみの場合は最短10米とし、普通20—40米、四十雀類のみの場合は最短20米とし、普通40—100米まで接近せしむることを得。然し大森林に於ては多くの場合それ以上の距離に架設してゐる。

(6) 営巣1個當の占領面積は小椋鳥の場合は2,000平方米、四十雀のみの場合は5,000平方米、各種鳥類が同時に営巣する場所では平均1,500平方米位まで爲し得た例がある。

(7) 巣箱は常に垂直に取付け出入孔が空向より寧ろ下向に取付けること。

(8) 彎曲せる木に曲つたなりに巣箱を取付けることは宜しくない。

(9) 巣箱取付の材料は針金又は釘止めとすること。然し發育盛りの木に針金を巻くと樹幹に針金の型がつき有害なるを以て、斯かる場合は別に樹皮を巻き其上に巣箱を結びつくること。

四、巣箱の管理

(1) 巣箱は9月中旬以降内部を掃除し破損せるものは直に修繕すること。

(2) 新設巣箱は遅くも4月上旬迄に取付けること。

(3) エゾモモンガ及シマリスの巣となれる巣箱は他に移動するか若くは發見次第驅除すること。

(4) 営巣期間中は成る可く近寄らざること。

(5) 4月上旬羽毛、馬毛、綿等を巣箱架設林に懸けて置くとよく利用するものである。

(6) 蛇の害烈しきときは煙草粉を根元に撒布して置くとよい。